

第1回とよた歴史検定 初級 解答

問	正解	テキスト ページ	解説
1	ア	108	郷土資料館の常設展では、大明神B遺跡出土のナイフ形石器、梅坪遺跡の細石刃などを展示している。
2	イ	109～110	酒呑ジュリナ遺跡(市指定史跡)は、縄文時代草創期の遺跡で、愛知県内の土器では最古級の微隆起線文土器が出土した。
3	ウ	114	曾根遺跡(市指定史跡)は縄文時代中期と晩期の集落である。
4	ウ	115	発見される土偶のほとんどは女性像で、再生や豊穡を祈願したものと考えられる。埴輪と混同されやすいが、埴輪は古墳時代に古墳の墳丘に立て並べるために製作された土製品である。
5	ア	116	配石遺構の性格は墓や儀式の場などが考えられている。写真は今朝平遺跡の配石遺構で、円形に石を配し、土偶や石棒などが発見されたことから、祭祀が行われていた場所ではないかと思われる。
6	ウ	104,113	温泉施設の名称は「どんぐりの湯」である。この隣接地である桑原町の中村遺跡から、縄文時代後期のどんぐりの貯蔵穴が発見された。
7	ア	120	写真は、川原遺跡(駕鴨町)から出土した弥生土器である。この形態の土器は、弥生時代後期の尾張地方を中心とした地域で作られ、パレススタイル土器と呼ばれている。土器の表面が赤色顔料で塗られ、櫛歯状の工具でつけた文様や刺突文がつけられていることが特徴である。
8	ウ	125	手呂町で宅地造成中に発見された銅鐸である。愛知県指定文化財になっている。
9	ア	120～121	鉄鏃とは鉄製の矢じりのことである。弥生時代の鉄製品の出土は非常にめずらしい。南山畑遺跡(広川町)では、鉄鏃3点のほか鉄滓や鍛造された鉄片が出土しているため、集落内で鍛冶が行われていたと考えられる。
10	イ	129	「内行花文鏡(ないこうかもんきょう)」である。中国でつくられた青銅製の鏡(径15.8cm)で、明治20年前後に土取り作業時に出土した。
11	ア	129	古墳の盛土(墳丘)の内部には、亡くなった人を納めるための場所が作られており、池田1号墳では花崗岩の巨石を使用して横穴式石室が造られた。馬場瀬8号墳は平戸橋町、八柱社古墳は森町にある。大仙古墳は大阪府堺市に築かれた全長約486mの日本最大の古墳である。
12	豊田大塚古墳	131	豊田大塚古墳(河合町)の発掘調査では、装飾須恵器をはじめ馬具や装飾品などが出土した。出土品は重要文化財で、郷土資料館常設展示で公開している。 (※『豊田市のあゆみ』では「市指定史跡」とあるが間違いである。記してお詫び申し上げます。)
13	イ	郷土資料館 常設展	大型の勾玉に小型の勾玉がついているため子持勾玉という。須恵器は古墳時代の土器の種類で、形象埴輪は古墳時代の古墳に立て並べるために作られた埴輪の種類のこと。
14	ウ	129	現在、7基の古墳を見学できる。1号墳は宅地造成工事のため、昭和45年の発掘調査後に滅失した。
15	エ	374	杉本町の神明神社の創建が貞観年間(859～877)と伝えられ、このスギは創建当時に植えられたと伝えられるため「貞観(じょうがん)スギ」と呼ばれている。
16	ア	141	奈良時代、三河(参河)国には7郡が置かれ、現在の豊田市内は賀茂郡・碧海郡の2郡にまたがっていた。挙母の地名は今でも伝わっているが、賀茂郡の8つの郷の一つである。賀茂郡には、ほかに賀茂・仙陀・伊保・高橋・山田・加祢・信茂の郷があった。
17	ウ	137～138	『延喜式』に名前が記載された神社のことを式内社(しきないしゃ)という。
18	イ	373	平勝寺(へいしょうじ)境内で行われる「綾渡の夜念仏と盆踊」は毎年8月10日と15日に行われている。
19	ウ	146	五畿七道(ごきしちどう)とは、行政区画と古代の道路を指している。現在の豊田市が位置する三河国(みかわのくに)は、東海道(とうかいどう)に属していた。

第1回とよた歴史検定 初級 解答

問	正解	テキスト ページ	解説
20	ア	156～158	岩神荘・綾渡荘は実在しない荘園名である。重原荘は、知立市を中心に高岡地区や刈谷市、安城市北部に広がっていた荘園である。
21	イ	181	織田信長の一周忌にあたる天正11年(1583)に、法要のために長興寺(ちょうこうじ)に納められたと考えられる掛け軸である。
22	ア	180	「長久手合戦図屏風」と一雙となる寺部渡辺家ゆかりの合戦図屏風である。ともに豊田市の指定文化財である。
23	イ	162	中条氏が猿投神社に寄進したものは「檜鳥糸威鎧 大袖付」(かしどりいとおどしよろい おおそでつき)のほか「太刀 銘行安(たち めいゆきやす)」があり、この2点は重要文化財になっている。
24	ア	207	拳母(衣)藩は、三宅家から、(一時期幕府領)本多家、内藤家と領主が変遷した。
25	ア		1石は約180ℓ。1石=10斗=100升=1,000合となる。升や合は米を炊く時の単位に今も使用される。
26	ウ	190	寺部に陣屋を置き、高橋地区の領主であった寺部渡辺家は明治維新まで、尾張藩の重臣であった。
27	イ	192	徳川家の祖先は松平氏で、松平親氏(まつだいらちかうじ)を始祖とする。
28	ウ	204	江戸時代の三河地方では農家の副業に木綿生産が盛んであった。
29	ア	193	鈴木正三は加茂郡則定城主の長男に生まれ、二代将軍秀忠に仕えた人物である(テキスト199ページ参照)。
30	ア	215	七州城の大手門は拳母祭りの山車が通れる大きさであった。海老名三平は拳母藩剣術師範である。
31	ア	218	弘道館は水戸藩、時習館は三河吉田藩・熊本藩、明倫堂は尾張藩ほかの藩校の名前である。
32	ア	222	「中馬」とは、運賃を稼ぐ賃馬から、あるいは荷主と買い手の中継ぎをする馬から中馬といわれた。
33	イ	231	近松門左衛門は浄瑠璃・歌舞伎作者、高野長英は蘭学者、渋川春海は暦算天文学者で、江戸時代に活躍した。
34	イ	214	七つの国は、三河、信濃、尾張、美濃、伊勢、伊賀、近江のこと。
35	ア	210	岸田吟香は拳母藩の儒官であった。高橋由一は吟香が支援した明治初期の洋画家、松平清康は徳川家康の祖父、田中長嶺はシイタケ栽培や製炭指導で三河地方の林業に大きな影響を与えた人物である。
36	ウ	236	村上忠順は刈谷藩主の侍医で国学者、宇都宮三郎は日本の工業化学の草分けで、「化学」という名称を使用した最初の人物。伊予田善兵衛は明治用水の開削に尽力した人物である。
37	ア	396	伊世賀美隧道が開通する前は、伊勢神峠を越えて荷物を運んでいた。
38	ア	275	市内では陶磁器の材料になる石粉が多く採掘されていた。
39	ウ	274	産業文化センターの場所には加茂製糸場(加茂蚕糸)があった。(※問題文に「産業文化センター(拳母町)」と記載しましたが、正しくは「産業文化センター(小坂本町)」です。記してお詫び申し上げます。)
40	イ	277	百々貯木場は矢作川上流から流された木材を保管するため、大正7年(1918)に建設された。

第1回とよた歴史検定 初級 解答

問	正解	テキスト ページ	解説
41	イ	293	防空思想の普及をはかるために購入し、衣ヶ原飛行場に格納していた。
42	イ	296	渡辺欽八は初代挙母市長、佐藤保は4代豊田市長、西山孝は5代豊田市長である。
43	イ	295	豊田佐吉は喜一郎の父で自動織機を発明した人物。豊田利三郎は佐吉の婿養子で、豊田自動織機製作所・トヨタ自動車工業の初代社長。豊田英二は平成25年9月に死去したトヨタ自動車最高顧問・豊田市名誉市民である。
44	ウ	318	反対運動がおこったが、企業とともに発展していくことを願って市名変更が行われた。
45	エ		浮洲重紀は杉浦忠の挙母高校の2年先輩で、中日ドラゴンズに入団した。元屋敷錦吾は、杉浦・長嶋とともに立教三羽ガラスと呼ばれた選手。藤田元司は巨人のエースのちに監督。
46	イ	396	愛知県蚕業取締所第九支所でした。蚕業取締所は、蚕の病気の検査や品種改良に関する研究などを行う機関であった。
47	イ	383	豊田の棒の手は、愛知県無形民俗文化財に指定されている。
48	エ	401	中町、竹生町、神明町、本町、西町、東町、南町、喜多町
49	イ		
50	ウ	358	平成27年は、合併から10周年となる。